

日露交流の原点の地としての静岡県—下田・富士・戸田—

日本大学 国際関係学部 安元ゼミ

指導教員: 教授 安元隆子

参加学生: 安元ゼミ 3年 20名

2年 12名 計 32名

【1】要約

鎖国の幕末期に、下田、富士、戸田で繰り広げられたプチャーチンはじめロシア人と日本人の、人と技術の交流の事実を広く世に知らせ、この物語を基に静岡県東部の駿河湾沿岸地域の活性化と日露交流の発展を図るために、日本語・ロシア語の絵本を作成した。

【2】研究の目的

本研究の目的は、鎖国の幕末期に下田、富士、戸田で繰り広げられた、プチャーチンはじめロシア人と日本人の人と技術の交流の物語を広く世に知らせるために、中・高・大学生以上の読者を想定した日本語・ロシア語版の絵本を作成し、この物語を基に静岡県東部の駿河湾沿岸地域の活性化を図り、日露交流の発展に寄与することである。



【3】研究の内容

①ディアナ号の沈没とヘダ号建造の歴史的事実

プチャーチンら一行のディアナ号の沈没とヘダ号建造について、戸田村誌叢書『ヘダ号の建造—幕末における—』(戸田教育委員会)、及び、日本財団図書館「ディアナ号の軌跡」(中部海事広報協会)を中心に学んだ。以下歴史的事実の要約。

鎖国時代の江戸末期、1854年、日露和親条約を締結するために下田に来航したプチャーチンら一行は、交渉を始めて間もなく安政の大地震に伴う津波に襲われ、ディアナ号が破損(右上図)。修理のために伊豆の戸田に向かうが嵐に遭い、富士の宮島沖に漂着、遂に沈没してしまう。富士の人々に救出されたロシア人約500名は戸田に向かい、戸田の人々と共に代替船を建造する。これは日本初の本格的洋式帆船であり(右下図)、この時学んだ技術は日本の造船技術の近代化に大きく貢献した。この船はプチャーチンによりヘダ号と名付けられ、1855年、ロシア人は無事に帰国した。この間、日露和親条約も締結された。私たちが住む静岡県は、隣国・ロシアとの交流の原点なのである。



②現状の調査

一般市民の上記①の歴史についての認識度、及び、現状、先行研究(作品)について調査した。以下調査結果。

ヘダ号建造の物語を知っていますか？70人にアンケート

■ はい(富士戸田下田出身)

* 2017年10月24、25日、20代男女70人にインターネットを使い実施

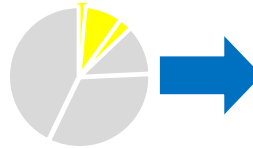
■ はい(富士戸田下田出身以外の静岡県出身)

■ はい(静岡県以外の出身者)

■ いいえ(富士戸田下田出身)

■ いいえ(富士戸田下田出身以外の静岡県出身)

■ いいえ(静岡県以外の出身者)



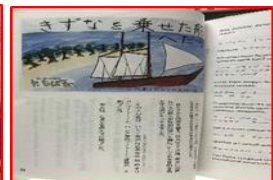
戸田号建造の物語を知っているのは

12%!

すばらしい国際交流の歴史があるにもかかわらず、あまりにも認知度が低い!!

上記①の歴史的事実を知っている人は少ない。私たちの日本大学国際関係学部生でも日露和親条約の締結年は知っているがその背後にある日露の人と技術の交流については知らない者がほとんどであった。また、下田、富士、戸田が属する沼津市でも、この歴史を知っているのは一部の人に過ぎない。2017年10月24、25日、20代男女70人に実施した安元ゼミのアンケートでは、ヘダ号建造の物語を知っているのは12%のみという結果だった。すばらしい国際交流の歴史があるにもかかわらず、あまりにも認知度が低いことがわかった。

下田、富士、戸田の各地域がこの歴史を物語化しているが、それぞれの地域を中心とした物語になっており、全体を包括したものがないこと



が判明した。(写真左から、下田:DVD『北からの黒船』、富士:絵本『ディアナ号がやってきた』、戸田:読み聞かせ『きずなを乗せた船』、)

また、日露交流の原点ともいべき静岡県であるにも関わらず、ロシアとの姉妹都市提携はなされていない。

駿河湾は2016年11月「世界で最も美しい湾クラブ」の加盟が認められた。静岡県では、「駿河ブルーライン」という駿河湾振興水産協議会のブランドができ、観光コースを提示しているが、ヘダ号に関連するものは含まれていないことを確認した。



そして、沼津では「ヘダ号再建プロジェクト」が始まり、ヘダ号の再建と世界遺産への追加登録を目指しているが、資金等の問題があり、実現にはまだ時間がかかりそうである。



③ 下田・戸田・富士研修

7月31日～8月1日、安元ゼミでは下田・戸田・富士の日露交流ゆかりの地を巡るフィールドワークを実施し、文献で学んだ幕末の日露交流を体感した。(写真は本報告書に添付した)

④ 科研費プログラム「ひらめき☆ときめきサイエンス」とロシア研修

科研費の研究成果を子どもたちに還元する「ひらめき☆ときめきサイエンス」に安元教授の企画「伊豆が日露交流の原点って知ってた?! 国境を超えた友情の証・ヘダ号を作ろう!」が採択され、2017年8月22日、応募の結果選ばれた小学5、6年生20名を対象に、



日本大学国際関係学部にて、ロシア文化に親しみ、ディアナ号の沈没とヘダ号建造の物語を紹介し、シンボルであるヘダ号をペーパークラフトで作るというプログラムが実施された。安元ゼミ生も助手として参加した。その際、子どもたちに物語を演じて日露両国人の気持ちを理解してもらおうと、絵本の原作となる台本を書き、ロシア語訳、挿絵の制作を行った。子どもたちは心を込めて物語を演じてくれ、ヘダ号の模型作りも熱心に取り組んでくれた。



9月7～14日に実施された安元ゼミのロシア研修では、サンクトペテルブルグに赴き、国立サンクトペテルブルグ大学、サンクトペテルブルグ国立文化大学、サンクトペテルブルグ583番学校を訪問した。日露両国の学生が日本語とロシア語でこの物語を演じ、また、ペーパークラフトを行った。



(写真上から「ひらめき☆ときめきサイエンス」にて子どもたちの朗読劇の様子、サンクトペテルブルグ国立文化大学での朗読劇の様子、左、完成したペーパークラフト・ヘダ号、右、ヘダ号色付けの様子、下、ロシアの子どもたちのヘダ号制作風景)

【4】研究の成果

以上を踏まえ日本語、ロシア語の絵本『日露交流の原点 ヘダ号建造の物語』を制作した。

(1) 当初の計画

読者対象は小・中・高・大学生と成人とし、日露語を同ページに収め、p. 70の雑誌体での絵本700冊を計画した。タイムスケジュールは、10月文献調査、11月中旬原稿完成、12月上旬挿絵完成、ロシア語翻訳完成、下旬編集、印刷へ、1月上旬印刷完成、中旬静岡県東部の小・中・高・大学・図書館等に発送。挿絵は絵画が得意なゼミ生の担当する予定であった。

(2) 実際の内容 [B] とその理由

読者対象を中学生以上、主としてゼミ生と同年齢の大学生に変更した。理由は、これまでに子ども向けの絵本はすでに作られていたためである。逆に大人が読む作品がないことを問題とし、対象を変更した。また、朗読劇の形ではなく読み物とし、内容は国際関係学部のゼミ生らしく、残された記録や証言を引用し、史実に基づき日露双方の視点から物語を構成することとした。そして、日本人の行った人道的支援だけでなくロシア人も日本人の救援を行ったことを取り上げ、かつ、道徳的な主題のみに収れんさせないこと、また、ロシアは日本に近代的造船技術を教えたことを伝え、日露両国を対等に記すことに主眼を置いた。内容については戸田造船郷土資料博物館の筒井久美子学芸員に検証していただいた。ロシア語翻訳は内田香織さん、松崎ユリヤさん、サンクトペテルブルグ国立文化大学のリュエバ先生にお願いした。なお、ロシア語は日本語より長くなるため、日露両国語を同ページに組み込

むと字数が多くなり読書欲の減退が懸念されること、挿絵が生かされなくなることから、編集の段階で、急ぎょ別冊とすることにした。その結果、ページ数が減少したのと同時に、2種類の印刷となり、予算の点から冊数を削減せざるを得なくなった。挿絵は、上手なことよりもゼミ生が力を合わせ全員で心を込めて作ることを優先し、全員で分担、制作した。絵が上手な者も下手な者もいたが、上手な者が添削カバーし、結果、手作り感のある冊子となった。(写真は編集作業の様子)



(3) 実績・成果と課題



『日露交流の原点 ヘダ号建造の物語』日本語版 (p. 44 表紙、裏表紙含む) (左写真) 300 冊、ロシア語版は *У истоков японо-российских отношений История строительства корабля «Хэда»* (p.42 日本語版末尾の添付マップ「プチャーチンゆかりの地を巡る旅」を省略) 100 冊が 1 月末に完成した。2 月初めに日本語版は静岡県東部の中・高校・大学、及び公共図書館等に送付する。ロシアの大学には 2 月末、安元教授が訪露の際に届け、学生たちには 9 月の安元ゼミロシア研修の際に持参する予定である。

(4) 今後の改善点や対策

8 月初めに本企画の採択を知らされたが、8 月に科研費プログラムの実施補助、9 月はロシア研修があり、11 月には「富士山麓 A&S フェア」の発表準備に追われ、計画通りに実施することが出来なかった。内容の変更の可能性もあることを肝に銘じ、早めに計画を遂行したい。

【5】地域への提言

絵本製作の他に、安元ゼミで作成した下田・富士・戸田を巡り、日露交流の物語を体感できる観光マップ(地域特有の富士山の景色や特産物、楽しみ方を掲載。ロシア語版も作成しロシア人観光客誘致を図る)を精緻化し、日露交流の物語を基とした歴史観光コースを作り、観光客を誘致する。また、安元ゼミで作ったペーパークラフト・ヘダ号を製品化し、戸田で制作する場を作れば遠足や修学旅行など教育的な旅行も誘致できる。全国の日露交流ゆかりの地のサミットを開催するなど、この歴史を基に地域を活性化し、全国を牽引する可能性があることを喚起し、ロシアとの姉妹都市提携を進め、更なる国際化を図るべきである。

【6】地域からの評価

安元ゼミは、沼津市観光課から日露交流を基にした観光開発の協力要請を受けた。また、2017 年 11 月の「富士山麓 A&S フェア」では、本企画の絵本製作を含めた「ヘダ号」の物語を生かした駿河湾地域の活性化一下田・富士・戸田を中心に一」が最優秀賞を受賞した。